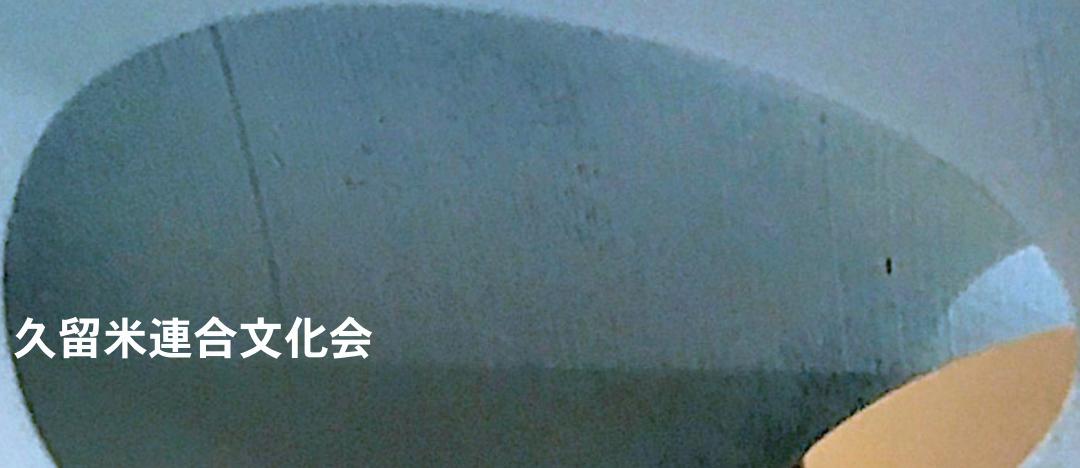


人文 REN BUN

の
Vol. 118
2025.1



久留米連合文化会

連なり その先に

西日本新聞久留米総局長 入江 剛史



24年、連合文化会が創立。75年が過ぎて、会員は460人余り。文芸、美術、舞台芸術など5部門23部に分かれるもの、団体のつながりではない。個の連なり。異分野の者たちが刺激し合い、久留米の文化を高める理想を掲げてきた。

「久留米連合文化会」と聞いて、分かつたようなふうで名刺を受け取った。昨年夏に西日本新聞久留米総局に赴任してまもなく、連文の方から御挨拶を頂いた。どこかしこにあるような文化団体の連携組織という認識で。

「私、素人なのですが…」と思つ。

ある作家に展示会場で、どこに視線を向けるのか聞いた。自らの作品の前で人が立ち止まるかどうか。己の主張を作品に埋め込み、それが届けば人は足を止めると。確かに「素人」の私も、一つ一つの展示物を同じ時間で眺めない。何かを感じれば足が止まる。「玄人」か「素人」より、何かを感じ取るうとするか否か。そう思うと、私自身と文化との壁が少し低くなり、心も軽くなつた。

「心ある友人たち」を包み込み、久留米の文化を紡いできた連文。これからも新たな連なりを生み出すに違いない。

「心ある友人たち」（緑の追想⑩）

文化の会は発展的な解散を遂げ、昭和

令和6年10月25日(金)～28日(月)、久留米BJガーデン（久留米岩田屋ある之城ビル7・8階）で開催しました。久留米BJガーデンの花展会場になつて2度目の開催でした。

九つの流派がそれぞれに力を合わせて、また自分の流派の魅せどころを精一杯表現しました。初日に西日本新聞社から取材に来てもらつて次の日は「新聞を見ました」とたくさんの方に来ていただきました。各作品の花材表も評判が良く作品と花材表を見合させ真剣に見入つておられました。各流派の先生方が、自分の流派の作品の説明などを行つてお客様にもとても喜んでいただきました。そして昨年を上回る1200人越えのお客様をお迎えすることが出来ました。

(華道部・江崎如風)

令和6年度詩の集い テーマ「戦争と詩」

11月17日(日)13時より、福岡県詩人会と合同で、筑後・詩の集いを開催しました。開催場所は、野中生涯学習センター。参加者48名。

第一部は、会員2人による講話。うらいちら氏の「丸山豊と檀一雄の戦後詩の比較」と山本源太氏の「丸山豊の戦争体験と詩」。

第二部は戦争詩の朗読。太刀洗平和祈念館の朗読部会から3人の方に参加頂いた、また戦争を体験していく詩人の詩として、会員の緒方が講話内容にちなんだ自作詩を朗読した。

戦争の二文字を詩人はどのように表現したのか、近年にない大きなテーマであったが、参加者は真剣なまなざしで、講演を聞き入つていた。(詩部・緒方和実)



久留米市表彰

令和6年度

11月3日(文化の日)

市の表彰式が行われました。連文会員で受賞された皆さんをご紹介します。



芸術奨励賞

■華道部 霽 紀千



この度の栄えあ

る久留米市芸術奨励賞をいただきまして心より御礼申し上げます。

芸術分野で今後の活躍が期待される人に贈られました。

導の賜物と存じます。

1990年に草月流洵花会田中千舟

社に入門以来、日々の稽古と華道展等さまざまな経験をさせていただき、力になつたものと思います。

今後も一層の努力を続け、地域での華

道の発展振興に尽力して参る所存でございます。



久留米市功労者

〈文化振興〉

■写真部 井口 益次(89才)

久留米光画会に

入会し写真を初め

て六十二年が過ぎ

た四十歳で連文会

員となり副会長時

代「美術・文芸コラボ展」では丸三年を

要した。県美術協会員になつた時ワープ

ロが出来るとの理由で副委員長に……

シニア展の黎明期であった。

令和6年度

久留米市ふるさと市民賞

文化振興、社会福祉など地域の振興に貢献し、「ふるさと久留米」のまちづくりに貢献された方に贈呈されます。

■日本画部 小川 寿一

1990年に草月流洵花会田中千舟

もひとえに、諸先生・先輩方のご指導の賜物と存じます。

喜びと同時に、身の引き締まる思いです。

これもひとえに、諸先生・先輩方のご指導の賜物と存じます。

1990年に草月流洵花会田中千舟

もひとえに、諸先生・先輩方のご指導の賜物と存じます。

喜びと同時に、身の引き締まる思いです。

これもひとえに、諸先生・先輩方のご指導の賜物と存じます。

今後も一層の努力を続け、地域での華

道の発展振興に尽力して参る所存でござります。

今後も一層の努力を続け、地域での華

道の発展振興に尽力して参る所存でござります。

洋楽部 稲益 初美

十一月三十日久留米光画会会長の中村金次氏の発案で受賞祝賀会が開催され

た。妻の同伴が条件で出席した。二つの花束が用意され内助の功を労う心配りだきました。大変光栄に思います。これまで私を導いてくださった方々、支えてくださった方々に心より感謝申し上げます。



第70回 桃青忌俳句大会

11月26日(火)、時雨忌(桃青忌の別称)の名のとおり、降ったり止んだりの雨の中、御井校区コミニティセンターにて今

年も桃青忌俳句大会を行いました。

高良山を「宝の山」としようという運動の一環でしようか、桃青靈社や宮地嶽神社の鎮座する広場も登り道も整備されていて、その事を有難く思いつつ吟行しました。



華道部 白石 敏子

この度は身に余る賞を頂き、感謝御礼申し上げます。

連文入会以来、各

部門の先生方々と手を取り合い歩いてきた日々を思いました。懐かしく幸せ一杯でございます。

東京オリンピック開催の昭和三十九

年十月、久留米井筒屋百貨店いけ花講師となり、それが久留米の土地環境に慣れ

る為に於いても出発点でした。

あれから六十年、人生とは決して独りでは生きていけないということに気付きました。今は道端の小さな草花にも自然と感謝の心を抱く日々を過ごしております。今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

選者一名の特選句(◎)佳作句は次のとおりです。

大力妙子選

◎原点へ戻る句心芭蕉の忌

野口桂子

芭蕉忌や歳月語る今日の会

平岡清志

時雨忌や雨にぬかるむ坂の道

平岡清志

◎我也又月日の過客桃青忌

吉田いずみ選

俳諧の隅に居て知る桃青忌

宮崎みゆき

ポケットに喉飴ひとつ翁の忌

大坪久美枝

第53回連文会会員美術展

会員賞



デザイン 「Realize」
吉崎 勇 (久留米市)



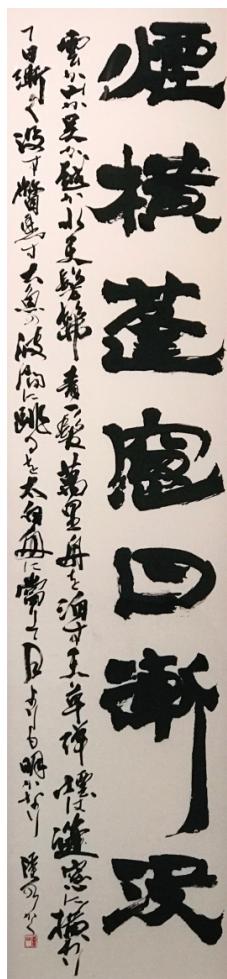
洋画 「街角」
松熊 幸子 (大刀洗町)



洋画 「晩夏」
高田 由美子 (久留米市)



日本画 「黄昏」 小川 寿一 (久留米市)



書道(漢字) 「賴山陽詩」
山口 溪水 (久留米市)



写真 「街角」 長田 敦子 (柳川市)



水墨画 「海風」 林田 美子 (久留米市)



写真 「春暁湧霧」 笠 龍介 (久留米市)



工芸 「搔潜」
中園 唯 (久留米市)



書道(かな) 「夕されば」 中村 郁子 (久留米市)

会期
会場

〔一期〕	10月23日(水)～10月27日(日)	彫刻・書道・デザイン
〔二期〕	10月30日(水)～11月3日(日)	洋画・工芸
〔三期〕	11月6日(水)～11月10日(日)	日本画・水墨画・写真

出品数は洋画37点、日本画6点、水墨画9点、彫刻2点、工芸14点、書道51点、写真31点、デザイン8点。会員賞は10点です。彫刻部は該当なしでした。

第73回久留米市総合美術展

歴史ある公募美術展

久留米市総合美術展は、美術の創作活動を推進し作品鑑賞の機会を提供するとともに、地域美術文化の振興と普及を目的に開催されています。筑後地区一円はもとより県内の高校生から一般の方々のための公募展であり、半世紀以上も続いている歴史ある美術展です。

第73回は令和6年10月23日(水)から11月10日(日)まで3期で開催。応募者244名、299点の応募があり優秀作を選出し表彰しました。



保田翠領賞（毎年更新）が加わりました。運営は実行委員会で行っています。

連文会員が審査員は務め、作品受付や会場の設営などにあたっています。次年度に向けて応募数を増す工夫し、出品者と来場者が楽しんでいただける展覧会になるように継続して努力しています。

ギャラリートーク

ギャラリートークを久留米市総合美術展会期中の日曜日、午後2時半より行いました。

11月3日(日)に洋画部門、11月10日(日)には日本画部門と写真部門が公募展の作品に関する講評を説明したり、手法などの解説をしました。



アートレクチャー事業 ～アーティストのメモ帳～

令和6年10月23日(水)から11月10日(日)まで開催されました第73回久留米市総合美術展にて2回目となります「アートレクチャー事業」を実施しました。

総合美術展出品者、来場者に向けて美術作品制作の更なる理解や造詣を深めて頂こうと青年部企画として執り行っています。今回は、一期目から書部、二期目から洋画部、三期目から日本画部に担当して頂きました。

書部は、「筆と紙のお話」をテーマに、様々な素材で作られた筆とそれでは書いた文字を展示し参加者とクイズ形式での問答をしたり、また、仮名文字を書く実演で筆運びや空間の取り方などを解説されました。



いました。

日本画部は、「日本画が出来るまで」をテーマに、スケッチから大作下絵への越し方を実際描かれた作品を掲示しながら解説されました。また、実演では顔彩絵具を使って花を描き、手順やコツを教授されました。

各部50分程のレクチャーでした。が、参加者からは、制作の過程や素材について聞けたことや、今後に作品を鑑賞する際の見識が拡がったなどと、大変に好評を頂きました。次年度の美術展にてアートレクチャー事業を実施し、多くの方々に美術の立體表現や陰影の作り方の実演を行

う。」をテーマに、近代美術史においての抽象画の誕生や観念に触れ、それらの見方について解説をしました。また、水彩絵具を使用しながら、濃淡で

制作や鑑賞についての関心を深めて頂きました。



（青年部委員長・宇美拓哉）

（久留米市総合美術展実行委員会 副会長・久我敏博）

応募の意欲の一つとなるように全部門の優秀作品から1点を最高賞として選出する「大賞（副賞10万円）」設けました。また写真部門を対象とした久

12月8日(日)、久留米シティプラザにて開催されているドクターブンブンアートであそぼう！

事業に、今年度も連文から青年部委員会が主体となりて参加致しました。

今回、美術部門は、久留米座ホワイエにて正月飾りのポストカード作り体験を、また文化交流部は、久留米座にてゴスペル体験を実施しました。

座にてゴスペル体験を実施しました。今回、初めて参加された文化交流部の廣重さんを含め、オンライン会議を通じて、当日の導線やタイムスケジュール踏まえながらプログラムを組みました。

ボストカードの材料をくじ引きで配布したり、ゴスペルをあけぼけの商店街で披露するなど各自で創意工夫を凝らしたイベントとなり、沢山の方から好評を頂きました。

昨年もここで触れましたが、過

去年と青年部委員が主軸に参加してきましたが、久留米市地域を担う子ども達に文化活動への興味やきっかけを提供出来る場として連文が一役買える素晴らしい事業として、更なる規模の拡大の為に多くの部門や部などによる新規参加を促すことを考えると、青年部委員会が企画実施を行うより、連文本体が参加を募り、実行委員会形式で執り行うなどの案も、今後検討するべきではないかと考えています。

(青年部委員長・宇美拓哉)

●お正月のポストカードをつくろう！

美術部門では「お正月のポストカードをつくろう！」と題し、子ども向けのものづくりワークショップを実施しました。

今回たくさんの方に美術体験に興味をもってもらうための仕掛けとして、受付にデザイン部考案のくじ引きを準備しました。これはポストカードづくりに使用するシールを入れたポチ袋をくじ引きの要領で引いてもらうもので、興味を持った方が続々と集まり、最終的には予定数を上回る34名の方に参加して頂きました。

ポストカードづくりは、お正月を象徴するものとして、まずは黒色の台紙に富士山や日の出を描いてもらい、次に金銀



字を漢字で書き入れ、最後の過程で

(青年部委員・伊藤珠)



●ゴスペルを歌おう！

舞台部門として、久留米座ステージにて初のゴスペル体験を行いました。

英語の曲は、歌詞の発音をまねてもらつた後にリズムをとり、そして歌に入るという順序で歌つてもらうと、すんなり憶えてくれました。2曲目は有名なクリスマス曲のメドレーで、曲間をつなぐブリッジのメロディーを子どもたちが担当しました。最後には手拍子やステップも加わって、あつという間に2曲とも歌えるようになります。

は、ちぎった和紙で富士山の山肌を華やかにしたり、たなびく雲を表現してみたり、シールを使ってだるまや来年の干支であるヘビをつくったりしながら、渾身の一枚を制作して頂きました。

皆さん真剣な眼差しで色や配置や文字を決め、試行錯誤をしながらシールや和紙を組み合わせるなど一生懸命に取り組む姿がとても印象的でした。

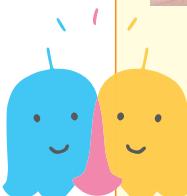
参加されたお子さんはもちろん完成を見守る保護者さんたちの表情も笑顔で溢れ、家族揃つてものづくり（美術）の楽しさを感じてもらえたのではないかと思います。

(青年部委員・伊藤珠)

体験後は場所を移して、アーケードで歌う大人のゴスペルグループOVGに加えてもらい、覚えたての歌を元気いっぱいにストリートライブとして披露する体験もできました。

普段あまり触れる事のないゴスペル音楽に、つきそいの保護者の方も興味深く一緒に歌つたり、子どもたちの撮影に勤しんだりと、私達も笑顔いっぱいになれる貴重な楽しい機会でした。

(文化交流部・廣重貴子)



第26回歌評会

2024年9月21日(土)、えーるピア久留米202号に於いて第26回歌評会をしました。9月の半ばを過ぎても焼けつく様な第3土曜日。6月に続いての2回目の短歌部歌評会をしました。



高齢者の会員が多くなり、体調を気づかしながらの歌評会ではありました。が、12名の参加者により23首の作品が集まりました。結社を越えた各会員ながらではの表現の仕方や語彙の用い方など、異論同論相俟った勉強会になりました。

上位2首は

◎ 夕方の水遣り終えしわが身より母と
おんなんじ草いきれする

本松 純子

◎ お祝の金をおろせば行員に「失礼です
が」と用途問はるる

(短歌部・白土久美子)
古賀 煙子

第76回久留米茶道連合会法要大茶会

令和6年11月10日(日)、今年も例年のように、梅林寺において開催されました。午前8時から位牌堂において開山和尚に献茶ご奉仕、その後本堂で御濃茶を臨川亭で江戸千家、聴松軒で表千家不白流、薄茶を大書院で大日本茶道学会、耕月亭で裏千家が担当して行いました。

今年は、梅林寺において、此の茶会に間に合うようすべての障子の張り替えをしていただき、すがすがしい環境の中で茶会をすることが出来ました。ありがとうございました。おかげさまで、参加していただいた方には美味しいお茶を楽しんでいただけたのではないかと思っております。

(茶道部・西依宗直)

連文日本舞踊勉強会

11月10日(日)、久留米シティプラザ久留米座に於いて日本舞踊勉強会を開催いたしました。

2年前の令和4年6月には本格的な会を催しましたが、今回はかつら・衣裳をつけない素踊りの会で、次代を担う子供たちも参加いたしました。当日は、小雨降る足元の悪い中で足労いただきましたが、お客様の熱気につつまれ、全20番の演目には無事幕を下ろすことが出来ました。日本が世界に発信できる文化の一つである日本舞踊を、未来に繋げていきたいとの熱い思いを胸に流派を超える力を合わせて、今後も精進していくたいと思います。

(日本舞踊部・藤間 勘志龍)



編集後記

最後に少し紙面を頂きました、広報委員会の現状や悩み、今後の広報誌でやってみたい企画について書いてみたいと思います。

—現状・悩み—

広報委員会の主な活動は年2回の広報誌発行です。活動時間は平日夜、コロナ禍前は会議室に集合しておりましたが、現在はZoom会議で話し合いを行っています。

原稿は各部長さんを通して集めております

が、提出される数や内容に差があり掲載判断に悩むこともあります。また、例年同じ内容を淡々と報告する記事ばかりになってしまいがちであること、ホームページにも同内容を掲載しておりますので、その役割の違いについても考える必要があり悩みは尽きません。

広報誌が会員同士の交流のきっかけになればと思い、これまで若手を中心とした座談会の記事にしたり、取材記事を掲載して参りましたが、いかがでしたでしょうか。皆さんどのような記事を読んでみたいでしょうか。

—新しい企画—

現在考えている企画は「アトリエ訪問」や「先達から次世代へのメッセージ」「若い世代の動き」です。作品は展覧会で見ることができますが、その作品に込められた思いをじっくり聴くことや連文への思いなどを知る機会は限られています。

そこで、例えばですが、異なる部で活躍する会員を訪ねてインタビューをしてみてはどう考えています。普段あまり交流のない部の会員が自由な視点で発想でインタビューすることで面白いお話を引き出せるかもしれません。

異なる分野で活躍する人々が一つの会を組織していることは連文の最大の長所であると思います。その強みを活かし会員同士の「ミュニケーションを生み出すきっかけになるーそんな広報誌を目指していけたらと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

RENBUN CALENDAR

○日誌○報告 2024年(令和6年) 8月～12月 report

杉並会議西部・ロック トライアングルコンサート	8／9(金)・石橋文化ホール
ムジカ・ソナーレ・アンサンブル 第26回演奏会	9／8(日)・久留米シティプラザ
第26回短歌部歌評会	9／26(日)・えーるピア久留米学習室 202号室
仙樵忌茶会(大日本茶道学会)	10／6(日)・国分寺
第73回久留米市総合美術展	10／23(水)～11／10(日)・久留米市美術館 1階
第53回会員美術展	10／23(水)～11／10(日)・久留米市美術館 1階
第43回会員華道展	10／25(金)～10／28(月)・ 久留米ビージェイガーデン <small>豊田屋6・7・8エレベーター前</small>
青木繁旧居「お茶を楽しむ会」(江戸千家)	10／27(日)・青木繁旧居
日本舞踊勉強会	11／10(日)・久留米シティプラザ 久留米座
第76回久留米市茶道連合会法要・大茶会	11／10(日)・梅林寺
日吉神社献茶(表千家不白流九州支部)	11／11(月)・日吉神社
詩の集い「戦争と詩」	11／17(日)・久留米市生涯学習センター
第75回西部示現会展	11／19(火)～11／24(日)・久留米市美術館 1階
第31回賢順記念全国箏曲祭	11／24(日)・久留米シティプラザ 久留米座
第70回桃青忌俳句大会	11／26(火)・御井校区コミニティセンター
ドクターブンブン アートであるぼう!	12／8(日)・久留米シティプラザ 久留米座
第23回ジュニア青木繁展(公募・搬入)	12／9(月)～12／13(金)・久留米連合文化会事務局
第69回助け合い茶会(裏千家淡交会久留米支部)	12／15(日)・久留米シティプラザ
JR久留米駅生け花展示(小原流・草月流・嵯峨御流／毎週交代)通年・JR久留米駅構内	

○芸術散策○行事のお知らせ 2025年(令和7年) 1月～7月 information

第23回ジユニア青木繁展(展示)	1／20(月)～1／26(日)・えーるピア久留米 2F
第52回久留米謡曲連盟謡曲大会	1／26(日)・久留米シティプラザ 久留米座
第43回水墨画心象会展	2／4(火)～2／9(日)・久留米市一番街多目的ギャラリー
第72号久留米文学発刊	3／1(土)
お茶を楽しむ会(江戸千家久留米不白流)	3／16(日)・坂本繁二郎生家
第72回けしけ祭	3／22(土)・かぶと山
写真部会員展	4／2(水)～4／6(日)・久留米市美術館 1階
第51回書道部書作家展	5／28(水)～6／1(日)・久留米市美術館 1階
令和7年度久留米連合文化会総会	5／31(土)・ホテルマリターレ創世 久留米
第71回連文茶道部大茶会	6／1(日)・久留米シティプラザ 室 大中小会議室
第18回工芸部作品展	6／3(火)～6／8(日)・久留米市一番街多目的ギャラリー
仲縄忌供茶呈茶(裏千家淡交会久留米支部)	6／27(木)・遍照院
浴衣の着付と日本舞踊講座	7月予定
JR久留米駅生け花展示(小原流・草月流・嵯峨御流／毎週交代)通年・JR久留米駅構内	

原稿
募集

次号1～9号の原稿募集しています。

会報に掲載したい活動の報告と予定を部でまとめ、部長が事務へお知らせください。

広報委員会で話し合い、部門と部の活動を優先し次に流派や個人の活動を掲載します。6月原稿締切、8月発行予定です。

計報
(令和6年8月～12月)

謹んでご冥福をお祈り致します。
吉村理愛さん (華道部) 令和6年12月

連文

連文会報 Vol.118 2025年1月発行
発行・編集/久留米連合文化会

〒830-0013 久留米市櫛原町 80-1(石橋記念くるめっ子館)

Tel.0942-32-7487 Fax.0942-48-6660 E-mail k-renbun@view.ocn.ne.jp

公式ホームページ https://renbun.jp

表紙/「キューピックな眺め」(撮影 中村金次)

